

平成29年度第1回社会教育委員の会議

平成29年4月21日(金)

午前9時30分開会

開催日時	平成29年4月21日	開会 9時30分 閉会 11時20分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	議 長 原嶋 和男 副 議 長 柴田彩千子 委 員 古家 義伸 委 員 石田 静子 委 員 城 瑞枝	委 員 長坂 寛 委 員 小山田佳代 委 員 佐野 郁蔵 委 員 原田 隆司	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 西田 剛 生涯学習課長 内田 雄介 図書館長 菊池 幸子 公民館長 林 利俊		
事務局	生涯学習係長 小堀久美子 生涯学習係主事 小佐野七香		
傍聴者人数	1名		

日程	議 題	
第1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議録の承認について (2) 平成29年度の視察研修について (3) 第3次小金井市生涯学習推進計画の評価について (4) 第29期社会教育委員の選任について (5) 平成29年度スポーツ関係団体への補助金交付について (6) 生涯学習支援センター機能について（ホームページの確認等） (7) その他
第2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 平成29年度生涯学習部の主な事業について (2) 公民館運営審議会委員の変更について (3) その他

原嶋議長

おはようございます。本日もよろしく申し上げます。

年度も改まりまして、第1回ということで、数字が入っています。それでは、今、お話がありましたように、西田部長さんのほうからよろしく申し上げます。

西田生涯学習部長 生涯学習部長の西田でございます。引き続きよろしくお願いたします。

早速ではございますが、4月1日付で生涯学習部管理職の異動がございましたので、私のほうからご報告とご紹介をさせていただきます。

これまで皆様に長年お世話になりました前生涯学習課長の石原弘一は福祉保健部健康課長に出向し、前市民部資産税課長の内田雄介が転任して着任しております。また、前公民館長の前島賢は福祉保健部福祉会館等担当課長に出向し、前都市整備部土地利用調整担当課長の林利俊が転任となり、着任いたしました。図書館長の菊池幸子につきましては、引き続きとなりますので、よろしくお願いたします。また、事務局の小堀係長、小佐野主事も引き続きよろしくお願いたします。

それでは、内田課長、林館長から一言ずつご挨拶をいたします。

内田生涯学習課長 このたび生涯学習課長ということで、こちらのほうを拝命いたしました内田と申します。ちょっと畑違いのところからの異動ということになりますので、皆様に一から教えていただく形にはなると思いますが、この間1カ月やってきて、まだ1カ月たっていませんけれども、待たなしでいろいろと進んでいるということがだんだん実感できておりますので、何とぞよろしくお願いたします。

(「よろしく申し上げます」の声あり)

林公民館長

おはようございます。先ほどご紹介いただきました、4月1日付で教育委員会公民館長を拝命いたしました林利俊と申します。3月まで都市整備部の土地利用調整担当という、用地取得を所管しておりました。やはり畑違いということで、教育委員会には初めての異動ということでございます。この部署が初めてでございますので、

一からのスタートとなっております。一つ一つやっていきたいと思っておりますので、このような形で至らない点多々あるかと思いますが、精いっぱいやらせていただきたいと思います。ご指導をいただきたく、お願い申し上げます。

西田生涯学習部長 ありがとうございます。

原嶋議長 よろしく申し上げます。

生涯学習課長さんのお名前が内に田んぼの田と書いて「うちた」なんですよね。

内田生涯学習課長 「た」なんです。

原嶋議長 濁らないということで。よろしく申し上げます。

なお、今日は柴田委員が授業の関係でちょっと遅れるということですが、あと、北村委員さんは例のことで、次の方を場合によってはお待ちするという感じなんです。予定されたこの時点での出席についてはオーケーということで、このまま進めさせていただきます。

どうでしょうか。レジュメの確認をしたほうがいいですか。ではお願いいたします。

小堀生涯学習係長 おはようございます。今年度もよろしくお願いいたします。

確認をさせていただきます。まず、次第です。平成29年度第1回社会教育委員の会議の次第が1枚目になります。その次、資料として平成28年度第7回社会教育委員の会議、資料1「平成29年度社会教育委員の会議視察研修行程表（案）」、資料2「第3次小金井市生涯学習推進計画評価シート（案）」、小金井市社会教育委員選任（選出）の在り方について（提言）、資料3「小金井市市民参加条例施行規則抜粋」、平成29年度スポーツ関係団体への補助金交付額（内訳と昨年度の交付）、資料4「他自治体生涯学習関係ホームページ資料」、資料5「平成29年度社会教育委員の会議等日程表」、平成29年度生涯学習部の主な事業についてと文化財センターの季節展「名勝小金井桜」、小金井市スポーツ推進委員協議会だより第26号、スポ進こがねい、図書館だより、小金井月刊こうみ

んかん3月号、4月号、とうきょうの地域教育、ウォーキングフェスタ東京、以上を配付させていただいています。不足資料はございませんでしょうか。

以上です。

原嶋議長

不足がありましたら、小堀さんのほうにお願いいたします。

では、早速の議題に入っていきたいと思えますけれども、会議録の承認についてということです。お聞きください。これらについては、逐次お読みいたしませんけれども、委員の方でもご確認しての承認案件になると思えます。何かありますか。なければ、承認ということによろしいですか。

(「はい」の声あり)

原嶋議長

では、承認したということによろしくお願いいたします。

続きまして、平成29年度の視察研修についてということですね。これは(6)の生涯学習支援センター機能についてとかなりリンクしているところがあると思えます。

それでは、よろしく申し上げます。小堀さんのところでいいですか。お願いします。

小堀生涯学習係長 資料1をごらんください。前回の会議、そして小委員会で視察研修についていろいろお話をさせていただきまして、メール等ではありますが、日程の確認等をさせていただき、決定しました。午前中は狭山市のほうに研修に伺って、建物内を視察し、そしてお話を伺いたいと思っております。戻ってきて、もし午前中のみ参加したいとか、午後のみ参加したいという方がいらっしゃる場合には、小金井市役所の付近で一旦停車をすることも考えております。そういう方がいらっしゃらなければ、そのまま次の場所に向かいたいと思うんですけども、ちょっと時間がかかりますので、途中で昼食休憩を挟みまして、午後は、三鷹市に今年の4月に新しくオープンした防災公園、そして元気創造プラザという、体育施設とか、生涯学習施設とか、小金井市が目指すものと合うか合わないかというところはあるんですけども、隣の市でできた建物ですし、一度見学させていただくのもいいかと思ひまして、そちらのほうにもこの日で

ということでお話ししましたら、快く引き受けていただけましたので、こちらの見学を考えております。一応8時半出発、17時帰着というのを考えております。

以上です。

原嶋議長 この日にちはもうしょうがないですね。相手様のいることですのでしょうがないなというところですね。あと、そのほか、この中身についてご質問ありますか。

佐野委員 佐野ですけれども、すいません。狭山市の市民交流センターの2階となっているんですけれども、これはどんな感じのところ。何かもうメールか何かでいただいていますか。

小堀生涯学習係長 まだ詳細はこれからなので、今回、生涯学習のホームページを最後に見るときにも、ちょっとだけ狭山市と三鷹市を入れているので、見ていただけると思うんですけれども、職員もあちらを見に行ったりとかもしたので、その様子をお話しさせていただいてもよろしいですか。

佐野委員 お願いします。

小佐野主事 3月に狭山市市民交流センターに行かせていただきまして、2階に生涯学習情報コーナーあり、また、3階には公民館があり、生涯学習関連の施設等が1つに入っているというような施設でした。階によっていろいろな特色がありまして、生涯学習情報コーナーも充実していました。

以上です。

原嶋議長 ほかにご質問はありますか。
元気創造プラザという、三鷹市にできたということですね。既に行かれた委員の方はいらっしゃいますか。いらっしゃらないですね。相手さんがいることですので、日にちはもう限定されています。また、日程あるいは当日行った中でいろいろ質問が出てくる。その辺のところはまた委員の中で検討していく必要があるかなと思います。

それでは、視察研修のこの行程表についてはよろしいですか。

(「はい」の声あり)

原嶋議長

大枠ですけれども。よろしいですか。

これで進めたいと思います。よろしく申し上げます。

推進計画の評価について、何回かここで出てきたところであります。よろしく申し上げます。

小堀生涯学習係長 資料2をごらんください。A4の1枚になっているんですけども、何回か会議の中で検討を重ねさせていただいて、こちらは市のほかの評価等をもとにして、重点プロジェクトについて評価シート该案としてつくって見たところに一部入れ込みをさせていただいておりますが、重点プロジェクト一つずつについて、計画に書かれている現状、目標を記載した上で、当該年度の前年度のどこまで事業が進んだか、そしてそれに対する評価、そして今後はどうやって進めていくかということを書いていただくという形の案をつくっております。

以上です。

原嶋議長

つけ足すことというのはありませんか。

この前の話し合いで、できるだけ重点的な中での評価をしていこうということはあったということですね。それを多分受けて、こういうご提案になるんじゃないかと思います。

どうぞ、まずご質問、お願いいたします。

ご意見、どうぞお願いいたします。

よろしいですか。1回、2回、3回目ぐらいの話し合いを土台にしたご提案になると思います。では、これを大枠として、今後評価をされていくということによろしいですか。

(「はい」の声あり)

原嶋議長

特に異論がないので、この形式でもって進めていただければと思っております。よろしく申し上げます。

その次に、第29期社会教育委員の選任について、(4)に入り

ます。

小堀生涯学習係長　こちら資料が2つありまして、1つは小金井市社会教育委員選任（選出）の在り方について（提言）というのと、小金井市市民参加条例施行規則抜粋という、こちらの2つを見ていただきまして、今、いらっしゃっている委員の方の任期が9月8日までということになっておりまして、9月9日から次期29期の社会教育委員さんとなるのですけれども、公募で委員の方を募集するんですが、そのときにその社会教育委員選任の在り方について（提言）の、ちょっと1枚めくっていただいた、5と振ってあるところの上を見ていただいて、（3）公募委員の選出の条件についてというところがありまして、そのページの中程に公募制度の導入に当たって第一の要点は人材を得るために、この制度を積極的に活用する姿勢が必要です。公募ということはそこに何らかの基準が必要となります。応募資格については、小金井市在住が3カ月以上で、年齢は25歳以上の市民とし、国籍は問いませんということが書かれております。

もう一つの資料3のほうに、小金井市市民参加条例の規則があるんですけれども、こちらの第9条をごらんいただくと、公募委員ということで、条例第9条に規定する公募委員になることができる者は、原則として応募時に18歳以上であって、市内在住・在勤または在学の者とするということで記載されております。今、小金井市で公募している委員の方は、主にこの市民参加条例の原則として応募時に18歳以上であって、市内在住・在勤または在学の者という、こちらのほうを募集要件としている委員会が多く、ほぼそういった委員会になっているんですけれども、社会教育委員については、先ほどもちょっと提言で見ていただいたように、在住3カ月以上、年齢25歳以上の市民としとなっております、次の29期の公募市民につきましては、こちらの市民参加条例に合わせて、原則として応募時に18歳以上であって、市内在住・在勤・在学の者とするという形にさせていただき、幅広く募りたいと思っております。提言でこのように書かれたものを変更したいと思っておりますので、今回、ご意見等を伺えればと思っております。

以上です。

原嶋議長

要は、市民参加条例にのっとり、原則として応募時に18歳以

上であるというのが多くの委員選出、公募委員の選出ということですね。これに準じて社会教育委員もその年齢を下げるところでよろしいですか。あとは特にありませんか。この部分が主に話の焦点ですかね。

小堀生涯学習係長 そうですね。

原嶋議長 どうぞ。ご質問か何かありますか。

西田生涯学習部長 ちょっと補足をさせていただきます。

原嶋議長 お願いいたします。

西田生涯学習部長 現実、実際問題として18歳以上の者であってということで、提言をいただいていたんですが、実際にそういうご応募が今まであんまりなかったかなと。若い方の参加がなかったという、逆に言えば、これからの社会教育、生涯学習を考えていく上では、幅広く年齢層をとということで、選挙権も今、18歳ということになっていますので、そういうことから言えば、25歳というご提言はもう13年前にいただいた提言でございまして、そのころに比べて、やはり社会情勢も変わってきているということもあり、市民参加条例の原則はこうなっているということも鑑みまして、今回、こういうご提案をさせていただきますので、ちょっとご議論いただければと思います。

原嶋議長 幅広い層から応募していただくということと、それから、これをつくられたときから、情勢の変化も含めて随分、また変わってきているんじゃないかということですね。

原田委員 よろしいですか。

原嶋議長 お願いいたします。

原田委員 今部長おっしゃったように趣旨としては、もう大賛成でございます。ただ、現実には、お話のように18歳以上というふうにしても、

応募があるかどうか。この委員会としては、やっぱりそういう若い層があったほうが、議論の幅が広がるとおっしゃった、そのとおりでと思いますので、何ですかね、その若い人たちにも目に触れるような募集の仕方を工夫をしたほうがいいんじゃないかと思います。例えば、私なんかは市報を毎月ちゃんと見ていますけれども、じゃ、大学生が読むかといったら、多分、ほとんど市報、見ていないと思うんですね。そういう意味じゃ、大学の掲示板に出すとか、あるいは社会教育に関係のある学科の先生を通じて公募するとか、何かちょっとできる限りの工夫をしたほうがいいのかと感じました。

原嶋議長 アナウンス、広報活動を少し充実していったらどうかということですね。市報だけですと、なかなか話題になるというのは少ないのかもしれない。

佐野委員 佐野ですけれども。

原嶋議長 どうぞ。お願いします。

佐野委員 要するに、この間、小平の見学に行ったと思うんですけれども、視察に。要するに、開催時間なんですよね。会議を普通に9時半とか10時とか、そういう時間帯でずっときていると思うんですけれども、はっきり言って、この18歳以上の方が、要するにその時間にこの時間をとれるかどうかということもひとつ問題だと思うので、やはり開催時間を少しいろいろ考えていただいたほうが、ちょっと私は幅広い方が応募していただけるし、また、委員として出ただけではないかなというふうに。小平のあそこのフリースクールですか、行ったときは、たしかあそこ、夜を開催しています。そうすると、やっぱり仕事帰りにその日は時間を都合して参加できると。何かそういうふうな、やっぱり工夫というか、柔軟性というか、何かそういうものもちょっと考えていかないと、やっぱりこの社会教育委員の活性化にもつながってくるんじゃないかなというふうに私はちょっと思います。

原嶋議長 ほかにどうですか。18歳ということの裾を広げたということではよろしいですか。問題は、佐野委員がおっしゃったように、でき

るだけ多くの層が出席できる時間帯を配慮というか、改善して
くれないかというところになるのかもしれませんがね。この辺は即答
というわけにはいかないですね。

西田生涯学習部長 即答ということにはちょっといかないです。申し訳ありません。

原嶋議長 要望ということで、ぜひ入れていただければなと思いますけれども。

それでは、このご提案の18歳以上の広げということはよろしい
ですか。

(「はい」の声あり)

原嶋議長 では、幾つかの条例もそのようなので、社会教育委員もその規則
にのっとって18歳以上で広げていくということでご協力ください。
私、時間の帯については、私も佐野さんと同じ意見なんですね。
仕事されている人はなかなか昼間出席は難しいのかなという感じ
がいたしますけれども、この時間帯、特に。ぜひお考えをいただ
ければと思います。

それじゃ、このところだけでよろしいですか。

では、18歳以上ということで、よろしく願いいたします。

スポーツ関係団体への補助金ということで、これは私が関係して
いますので、進行しちゃうとまずいので。

西田生涯学習部長 副議長が来られてからお願いできればと思いますが。

原嶋議長 よろしいですか。

西田生涯学習部長 先回りしてほかの議題をお願いします。

原嶋議長 そうですか。それでは、今日が主にメインになるのは、この6番
になるのかなと思っています。

事務局さんからはホームページに、何ていうか、推薦する、挙
げるようなものを、自治体のほうで挙げてくれというご要望があり
ましたけれども、そのご協力についてはありがたく思っています。

では、こちらに映るわけですね。投影されるわけですね。

小堀生涯学習係長 はい。すいません。インターネットを直接つないでというのは、ちょっといろいろ試して考えてはみたんですけども、難しかったので、主に原田委員からご提案いただいた自治体のものをまとめたものがありますので、そちらを映します。

途中、よろしければ、原田委員からの意見もお願いします。

原田委員 はい。忘れちゃったんですが、幾つかこういうのがありますよということをお知らせしたんですけども、別に全部見たわけじゃなくて、飛び飛びに見て、ちょっと引っかけたものということで、これから出るものが一番いいというわけではありません。たまたま記憶に残ったということでもあります。

これ、順番に出てくるんですか。

小堀生涯学習係長 そうですね。

原田委員 初めに、これ、大田区ですね。大田区は生涯学習ガイド『わくわく』という情報を出しているんですが、それが大田区のホームページにそのまま掲載されております。それで、実際に……これですね。印刷媒体としても配布されておるし、それから、お役所の窓口に行ってももらえるそうなんですけど、このようにインターネット上でも見ることができると。春・夏号と書いてありますが、4月から7月ですね。4、5、6、7月の4カ月分ですか。知りたい、学びたい、体験したい、つまり、生涯学習、これから何かやってみたいという人に参考になるようにできているようでございます。

小堀生涯学習係長 これは次のページです。

原田委員 皆様の学びを応援するために行われているイベントをまとめたものだという、イベントとかサークルとか、そういうものですね。このように、目次でいいますと、「まなぶ」、「くらし」、「みる・きく・よむ」、「あそぶ・つくる」、「こそだて」、「けんこう・ふくし」、「ちいき・こうりゅう」、「スポーツ」、「そうだん」ということで、いろいろな分野を網羅して載っているということです。それで、あと

はこういうようにイベント面があり、内容はどんなことがあり、日程がいつで、どこで誰が対象かと。申し込みはここへということで、必要十分な情報が簡潔に載っているということですね。

これ、大田区の場合、この資料がベースになっているんですけども、実際に月曜から金曜日は常設の窓口があって、8時半から5時まで、相談に来て、相談に乗ってくれるということでございます。それから、それだけではなくて、2カ月に1回ですね、相談会というのをやるそうでありまして。これかな。学習相談会。今、予定されているのは5月と7月にやりますよと。この日は、そうですね、多分、わかりますね。相談員の方が複数いて、まとめて相談に乗れるというような仕組みになっているということでありまして。これが大田区の例です。

それからですね、千代田区の例は、これは検索機能が充実しているなと思いました。これ、どの区のものもなかなか、入っていくのに、面倒なんですよね。かなり慣れないと入れないので、やっぱり窓口で。

小堀生涯学習係長 これは順番に入っています。

原田委員 これ、順番に入りました、生涯学習が。それから、検索というページがどこかにあったと思うんですが、この先。これか。これですね。「講座・イベントを探す」、「施設を借りる」、「サークルを探す」、「講師を探す」とありますね。ということで、目的別に検索のこういう大きなボタンがついていて、何か講座に参加したいなと思ったら、講座のところを押すとだあっと出てくる。それから、施設を借りたいなと思ったら、施設というふうになっています。それから、サークルに入りたいなと思ったら、サークル。こうやって、種目別に何かチェックすると、だあっと出てくる。茶道をやりたいと思ったら、もう茶道のところですね。あそこをやれば出てくるということですね。それから、講師から探すという方法もあります。これは、講師ってどういう人がやっているのかなというのと、ええと、これはこれ、講師、出ているのかな。

小堀生涯学習係長 はい。講師が出ます。

原田委員

出ていますね。というようなものです。

それから、今度は港区です。これは、どこか途中から指定事業者のページに飛んじゃって、なかなか区からなかなか行けないのが使いにくかったんですが、たどり着くと、わりかし便利だなというものです。生涯学習センターバルーンというのがあるそうでありまして、そこを運営している事業者がつくっている外部サイトというのがあります。これがそうですね。そうすると、今までの例と同じようにどういうサークルがあるかとか、どういう講座があるかとか、施設を使うにはどうしたらいいとかというようなことがこういうふうに出てまいります。港区は2カ所あるのかな。

小堀生涯学習係長 今、赤印を押しているんですけども、ここを押すと、その詳細、団体の詳細まで行けるようになっています。今は黒塗りしていますが、電話番号は普通に入っています。

原田委員

これなんかは、もともと紙媒体でやっていたようですね、これ、そのサークルの紹介を。それをそのままインターネット上で見られるようにしているということで、使いやすいかなと思いました。それから、わりに簡単にこれはまねができるかなと思いますね。これは講座一覧ですね。

小堀生涯学習係長 まなびや講座一覧。ほとんど同じですね。押すと、それぞれ出てきます。

原田委員

これも今月の講座の。

それから、近隣で言うと、武蔵野市。ここは大人のための生涯学習ガイドという冊子と、それから、子供のためにも別にあるんですね。小中学生の講座のガイドブック。ガイドブック自体があるんですけども、これの中味がホームページから見られるようになっています。これは今まで見たような、いわゆる検索機能とかはないようなんですけども、この冊子を……紙で見なくても、インターネット上でもこうやって見られるということでは、少し参考になるかなと思います。それから、武蔵野市の特徴は、大人と、それから、小中学生と分けてつくっているところですね。小中学生のこの講座まるごとナビというのもあります。このように小中学生向けの内容

でまとめてありますね。

以上が私の見つけたもので、参考になるかどうかわかりません。

小堀生涯学習係長 追加で、今度視察を予定している狭山市さんと三鷹市さん、後から足したので一部なんですけれども、こちらが狭山市さんのホームページの中のさやまなびいネットという検索システムになっておりまして、さやまなびいネットを押すと、こういった3つの区分ができていまして、これはどれでも押せるようになっていまして、一つ押してみると、ジャンルとかワードとか、活動場所というところで検索ができるようになっていまして、これが語学を押してみたところなんですけれども、この1つのサークルを押すと、サークルの詳細がこういうようになっています。また、ここは個人情報あまり載っていないくて、問い合わせは生涯学習情報コーナーへという形でなっています。こちらはもう一つ華道というところで、同じですけれども、詳細が見られるようになっています。これは、ボランティアという項目があったんですけれども、ちょっとそちらを押してみましたら、講師の情報のページですね。そこを見ますと、この上のちょっと黒塗りしてあるところ、個人の名前が入っているんですけれども、赤印のところを押すと、先ほどと同じように詳細が書かれています。一月ごとにサークルの情報が載っているようで、ここを押すと、サークルの情報が載っていました。コミュニティというコーナーがあったので、どういったものかなと、ちょっと試しに見てみたんですけれども、これ、たくさんヒットして279件表示されているんですが、いろいろな会の紹介が出ていまして、この左側のブルーの印になっているところは全部、いろいろなものにつながっているの、充実したホームページになっているかと思います。

今度、狭山市のほうに行くに当たっても、ホームページを見せていただきたいとか、こういったものをつくるに当たっての、法人の方とのこういうお話も伺いたいということでお伝えしておりますので、もし時間等がありましたら、ご自宅でも狭山市のホームページ、一度見ていただければと思います。最後に午後行く予定の三鷹市なんです、こちらは三鷹中央防災公園・元気創造プラザというところで、防災公園とこういう建物が一緒になっているようなんですけれども、いろいろな、上に出ているんですが、公園、スポーツ、子ども発達支援センター、保健センター、福祉センター、生涯学習

センターと、多機能の施設になっていて、ここが生涯学習センターの部分になります。時間の関係もあるんですが、1時間程度、生涯学習の部分を中心に施設の見学とお話をしてくださるということで、もしちょっと、もうちょっと調整してからなんですけれども、せっかく行くんだったら、全体を見たいということであれば、プラス30分くらい、ちょっと自由に見させていただけたりとかということも可能かとは思っています。

これで以上、終わりですが、もう一回見たいとか、特に。もうこれで大丈夫ですか。原田委員が選んでくださったものを主に配置しました。

以上です。

原嶋議長 どこかの自治体、もう一度そこを見たいというのはありますか。港区だとか、いろいろ出てきますけれども、どうですか。なければ。

小堀生涯学習係長 そうですね。はい。

原嶋議長 どうも、小堀さん、ご苦労さまです。また、原田委員さん、ほんとうに今日はありがとうございます。

今、生涯学習、市民の方ができるだけ入りやすい状況のものを参考にとということで、幾つか見せていただきました。とりわけ、狭山に伺うときには、やっぱりまず前提は、つくるに当たっていわゆるグランドデザインというんですかね。大きなものの中でどうしていくのかということをやっぱり視点として伺ってもいいのかなと思っています。

ちょっとせっかく小委員会でもその際に、柴田委員さんのほうが中野とはちょっと関係しているので、情報としていただけますでしょうか。

柴田委員 先日、中野では市民が生涯学習センターを担いかけているというような話をしたんですけれども、まだそこまでは、実はよく聞いてみたら、至っていないくて、市はそのような方向でいるんですけれども、市民の方たちがNPO化はしないとか、自分たちのやりたい活動の方向性を担保していくためには、独自の活動をしていくために、ちょっと一線を画したいというところで、なかの z e r o とい

うスペースに1つ、1部屋は市民が与えられていて、そこでなかの生涯学習大学という市民大学を管理していたりとか、そこで常勤ではなくて、アルバイトをその団体から輩出しまして、市民の生涯学習センターの機能というか、相談という業務をお手伝いしているというようなところで、すっかりそこが委託されて担っているというようなものではないそうです。

原嶋議長 ありがとうございました、急に振っちゃって。

柴田委員 いえいえ。

原嶋議長 ついでに、小山田さん。あのときの話をお願いします。

小山田委員 墨田区ですね。

原嶋議長 墨田区。

小山田委員 墨田区は、はい。生涯学習課でネットワークみたいなのをつくっていて、その会があって行ってきたんですけども、やはり別に生涯学習センターというのがあって、そこはやはりNPOに委託されていて、そのNPOの方たちがやはり市民の方たちでつくられたNPOということで、そこがやはり運営、委託されてやっぴらっしゃるといふことで、かなり幅広、先ほどのいろいろな学習が出てましたけれども、その中でいろいろな学習をやっぴらっしゃるといふようなことで、多分ホームページ、私はここには出さなかつたですが、ホームページも多分墨田区の生涯学習センターと検索していただければ出るとは思ふんですけども、そちらは完全に区から委託されて、NPOがそのセンターを運営されていて、その一角にやはりこういった情報コーナーみたいのがあるといふような形です。サイトもあるといふことです。

原嶋議長 ありがとうございました。
何かつけ加えありますでしょうか。よろしいですか。

柴田委員 先ほど港区のホームページが出ていましたけれども、港区も生涯

学習センター、NPOに事業委託をしています。港区は予算がわりと豊富にというか、潤沢にあるような自治体ですので、そういうことも関係して、幾つかの人気講座をオンデマンドで配信しています。自宅で遠隔教育みたいなのか、そのオンデマンドをされている講座のアクセス数もさまざまなようですけども、遠隔教育というところにも配慮した事業がホームページ上で行われているというところでは。

原嶋議長 ちょっと先に進んでる感じ。違いますね、それは。

佐野委員 ちょっと意見、よろしいですか。

原嶋議長 どうぞ。お願いします。

佐野委員 小金井市の場合は、ちょっと今、前にもちょっとお話ししましたがけれども、要するに財政規模とか、それから、人口の比較とか、そういうところで今、見せていただいたところは、皆さん、建物自体もお持ちになっている。それで、小金井の場合は、そういう情報の発信するということで終わっていて、実際に建物を持つことは現状ではできない。だから、そういうふうな、何ていうんですかね、ベースがあまりにも違い過ぎてですね、これから市庁舎と公民館の話も今出てきていますので、何かそういうところにリンクして、社会教育委員の会でいろいろ問題を提起していけることがそちらのほうにリンクして活用できるのかな、してもらえるのかどうかというのは、すごく気になっているんですよ。

ですから、素晴らしいところをたくさん見せていただいていますけれども、じゃ、小金井にそういうもののどういう部分を導入できるのかということを考えていかないと、ほんとうに、ああ、よかったね、あれ、素晴らしいねというようところで終わってしまっは、ちょっとやっぱりもったいないんじゃないかなという気がする。ですから、その辺のところをもう少し、小金井の実情に合ったようなところをやはり、私も含めて、探してくるというか、それで、こういうところもありますよという形で紹介をすることが大事なのかなと思いますね。

原嶋議長 ほかの人はどうですか。

古家委員 古家でございます。今、佐野委員もおっしゃっていましたが、私も、財政的なことから考えると、箱物のことを考えるのは、私ほどこだ無理なことだと思うので、それはやめたほうがいいと思うんですね。今の武蔵野市のようなことはもう120%とか、もう200%不可能なことなので、そんなこと、議論しても何の役にも立たないことなんで。

(「三鷹市」の声あり)

古家委員 あ、三鷹ですね。はい。それはもうあり得ない。庁舎ができることの中にも、箱物として生涯学習にかかわるような部分では、社会福祉会館のことでさえ、まだうまくいっていないぐらいですから、とりあえず、施設・設備とか箱物のことはもう除外しておいてと考えるほうがいいと思うんですけども。私は前回部長のほうがおっしゃっていたことについて、可能性をちょっとやっぱりお聞きしたいなというふうに思っているのが2つあるんですね。

1点目は、小金井市役所のホームページに生涯学習センター的な、生涯学習の機能をリンクするなりなんなりということは可能なんではないかという話をしたときに、それは多分無理ですということをお前におっしゃっていたと思うんですけど、おそらく小金井市役所のホームページとか、いろいろなことも含めたときに、サイバーセキュリティのことも考えてのことなんだろうと思うんで、その辺を市のホームページと何かリンクするなりなんなりすることはもう、ほんとうに不可能なのか、それとも少しは可能性があるのかという部分は、少し具体的な部分でお聞かせいただきたいなということと、もう一つは、先ほどの多くのところがNPO法人になり、市の職員の方ではなくて、そういうふうな方にホームページを、作成を依頼しているというのがあったと思うんですけども、さっき見たようなホームページの部分だけでも、今の生涯学習課の職員の方にどなたかが1人か2人、専属でやったとしたら、あれだけでもすごい作業量だろうと私は思うんで、それはかなり難しいのかなと思うんですけども、委託みたいなことも含めた、そういう予算的なものも含めた、市役所のホームページとは別の部分の、全く独自の

生涯学習に関するようなホームページをつくる可能性みたいなものについて、財政的なものも含めて、少しぶっちゃけた話でお聞かせいただきたいなというのがあるんですけども。

西田生涯学習部長 すいません。生涯学習部長です。

公の場なので、あまりぶっちゃけたというような話にはならないんだとは思いますが、基本的に、ホームページの中に生涯学習部のものを、そのホームページそのものとして作り込んでいくというのは、現実的に不可能と思われまして。ですから、そういう検討をするのであれば、リンクさせることは不可能ではないと思います。

実際、小金井市のホームページもほかの団体のホームページにリンクして、有機的に統合して見られるようにしているページというのはたくさんありますので、ですから、生涯学習のホームページに飛びますよということは可能です。

それから、2点目ですね。生涯学習課の職員でつくると膨大になるけれども、委託はどうかという話なんですけど、確かにおっしゃられたとおり、生涯学習係の職員が3人しかいないんですね。日常業務も行いながらということになるので、どうしても土・日・夜間の仕事になってしまいます、もしホームページを自前でつくれということになると。職員1人当たりの時間外手当の単価を考えると、そんな非効率なのではないかと思えます。しかも皆さん、申しわけないですけども、ホームページづくりのプロでも何でもないので、生涯学習についてはプロですけども、そういうことで言うと、やはりお互い情報交換しながら、餅屋は餅屋にやっていただくのが、これは効率的だろうということになると、外部委託という目はあるかと思えます。ただし、その必要性等を生涯学習部、生涯学習課がきちっと必要性ですとか、重要性をいかに説明できるかということがキーになってくるかなと思えます。当然、お金がかかってきますので。

そういう意味では、社会教育委員の会議の中で十分もんでいただいて、重要であるというような位置づけをつけていただければ、それは一つの形にはなるかなと。一つの説明する材料のものにはなるかなとは思えます。

ありがとうございました。

原嶋議長

よろしいですか、今。

古家委員

では、すいません。続けてなんですが、リンクは不可能ではないというふうな部分がありましたね。そうすると、小金井市のホームページのところ生涯学習センター的な、コーナーみたいなものをつくるというのは不可能だということからいって、その生涯学習課の業務として係が3つあるところに、シンプルなものがありますけれども、それにかかわるようなところで、リンクの方向を考えていくと、例えば図書館のホームページとか、公民館のホームページとか、そういうふうな、生涯学習にかかわるような部分の中のものにリンクするというような構図を描いていくということは一つの姿としてあり得る方法かなというふうには思うんですね。

もう一つは、小金井市の場合で、もしも予算をあまりかけないで可能な限りというようなことで、リンクするような、ある程度他市のすばらしいものをイメージすると、それはとても大変なんですけれども、今可能なものとして、こんなふうに整理していくような部分にリンクで飛びますよみたいなことだったら、例えば社会教育にかかわるようなどこかの団体の皆さん方が率先して担当してくださるようなことは、不可能ではないのかもしれないという気はしないでもないですね。例えば科学の祭典などを運営してくださっているような組織などもあるし、どこかがある程度公的な性格も持ちながら、やってもいいですよみたいなところがもしあったとしたら、それは見通しとしてはできるのかなというふうには思うんですけれども、その辺の見通しというのはどうなんでしょう。

西田生涯学習部長 なかなか難しいんですけれども、市民協働という考え方がありまして、NPOの法人というものが有りますよね。そういう非営利の特定の団体に関して委託をすることは可能ですし、例えば小金井市で言えば、貫井北と東のセンターなんですけれども、こちらについてはNPO法人市民の図書館・公民館こがねいというところが実際に運営も既にしています。そういうことで、生涯学習の知見を持った市民団体ですけれども、市民の方々が非常に今小金井では一定いらっしゃるということは言える状態になっています。

そういったところで、例えば、そういう事業にも乗り出すとか、

ホームページづくりもやるんだとかというところに手を広げていくということもあるのかもしれませんが、あるいはそういう市民の団体の中で、ホームページをつくるのを専門にやっているところもあるかもしれません。実在の企業、一般の株式会社、有限会社などとともにそういったところも選択肢の一つとして入ってくることはあるかと思います。

古家委員 質問ですけれども。

原嶋議長 どうぞ。

古家委員 どうぞ。

原嶋議長 では、石田さん。お願いします。

石田委員 すいません。石田です。

今、科学の祭典のホームページのあれが出ましたので、最初は小金井ネットというNPO団体がしておりましたが、それがもう解散しましたので、その1年ほど前に学芸大学の理科教員高度支援センターのホームページの下にぶら下がるという形で科学の祭典のホームページはつくっています、今。そして、それは学芸大学の支援センターの係の方が暇なときにやったださっているの、なかなか更新が難しいです。そして、私は個人で小金井ネットというところが健在なころ、つくりましたら、費用は5万円で年間管理費1万円でつくってもらいました。ですから、ホームページを好きな学生さんとか、そういう方ですと、意外と大好きな方がいるんです。ただし、ソロプチミストのホームページはヤフーの中で営業ではないページに無料で借りて、それでそこに、今、専門で1人、とてもよく勉強してお教室にも行っている人が専門でやっています。ただし、私はそのホームページのページはつくられないので。

そういう感じで、ただ、市のこういうホームページがヤフーとかそういうの、無料のところに入ってつくるということは結構厳しいので、やっぱり市からリンクできるならば、学びたいところはどこですかという項目から飛んで、図書館とか何とかというふうに飛べるとい項目でつくれるものならば、リンクさせていただければ、

可能性があるのではないかなと思います。

そして、今、図書館で小金井市の図書館という諮問が、図書館長もいらっしゃいますが、出ているんですが、その中の委員の一人が前回の会議で言った言葉が、各いろいろな、緑町とか北町センターとかありますね。そこにそれぞれのいろいろな特色を持たせることによると、小金井市は箱物がないから、例えば北町に行ったら、学習とか、それから、東町に行ったら、教わることができるよとか、そういう特徴をその公民館を通じてのようなイベントの特徴をまとめるということはできるのではないかなというふうに、私はその後、図書館委員の方が言った、今既存の施設、図書館が、図書館の施設の中の、その公民館の施設の中に特徴を持たせるということで、箱物はないけれども、大きいものの中の構想の中に入れることはできるんじゃないかなという考えがとてもいいと思っているんです。そういう考えで小金井市のホームページもつくり上げていくことは不可能ではないのではないかなと思っています。

古家委員 部長、質問ですけれども、今、小金井市のホームページは市報こがねいが毎月載っていて、1ページずつ見られますよね。あれと同じように、例えば生涯学習関係の冊子があるとして、それをああいふふうにPDFで載つけるということは、問題なくできるんでしょうか。

西田生涯学習部長 これはできない話ではないですと思いますね。実際やっている課もあります。ただ、容量がどれぐらいあるかにもよるんですけれども、PDF化した冊子が計画として載っているという事例は、実際にホームページにあります。

古家委員 ありますよね。

西田生涯学習部長 はい。

古家委員 それで、さっき紹介した中で大田区というのは、人口も予算もすごく大きなところだと思うんですが、内容的にはごらんになったように、非常に単純なんですね。まず、『わくわく』という冊子をつくって、それをPDFで載っけているだけ。それから、相談センタ

一があるわけじゃなくて、生涯学習課に職員がいて、相談に来た人に相談に乗ると。ただし、二月に1回は相談会がありますよということで、大田区の例は、まねができるレベルなのかなと感じましたし、それから、利用者側からしても、情報が提供されて相談ができるという、2つの条件が満たされて、ないのは検索ができないということだけなんです。検索をできるようにホームページ、つくるといふふうになると、途端に大変なことになりますので、そこまで背伸びする必要ないのかなという感じがしました。

原嶋議長 どうぞ。

小山田委員 すいません。ちょっと事例紹介ということにもなるんですが、やはりこれからいろいろ見学に行って、実際にセンター、私も箱物は小金井に期待するのは無理だと思うので、ですけれども、やはりこういった情報が集約した、こういったセンター機能ということは、計画の中にも入っていますし、やはり見るだけではなく、実現に向けて何かこの後できないかなということは考えていけたらということちょっと思ったりしてはおります。

その中で、一例として今、子育て支援課のほうで管轄で、子育て関係の情報というのが、実はのびのび一という、平仮名でのびのび一というサイトがあるんですけれども、それはいろいろないきさつがあるんですが、小金井の子育てネットワーク協議会という協議会が立ち上がりまして、その中に今、団体が70団体ぐらい、登録しているんですけれども、そこがつくろうということで、サイトをつくったんですね。もともと、やはり先ほども冊子というのがあったんですけれども、小金井のほうにも子育て情報誌という、『のびのびこがねっ子』という情報誌がまず先にちょっとあったんですが、それも今、実はPDF化されていて、子育て支援課のほうから見られるんですけれども、それをもとにもっといろいろな子育て情報をということで、最初立ち上げたのは、別の東京都の交付金がおいているときがあって、そこにネットワーク協議会として応募して、その交付金をとって、その交付金もとの原資となってそのサイトをつくったんですけれども、その後、その中には市のほうも入っていただいて、公的な、いろいろな輪になって、民間も行政も一緒に一つの協議会をつくっていこうという趣旨のものだったので、

そこで作ったものがあった、その後、その維持をするために、今、ネットワーク協議会には子育て支援課のほうから補助金が出て、そのサイトも維持できていて、今、外部リンクということで、市の子育て支援課のちょっと何層かくぐらなくちゃ、出てこないんですけども、そこにそちらの子育てネットワーク協議会のサイトというのに飛べるようには実はなっていて、なので、今回の生涯学習の中の一個として子育て系の情報というのはある程度そこには集まっているものというのは、実際、できてはいるので、またそちらの生涯学習部のほうも多分それが俯瞰されたことに、もっと俯瞰された内容になってくると思うんですけども、何かしらの方法ではできなくはないのではないかと思います。

あと、食育関係、健康課のほうの食育関係のサイトもすごく充実しているんですけども、そちらはやはり食育の関係した方々、市民の方々の有志で、それはほんとうに有志が無償でつくっているという話も聞いております。そこもかなり充実していて、それも市からリンク張って、外部でやっぱりつくっているんですけども、それは市民の有志でほんとうにつくっているというのもあります。

ということです、情報提供ということで。失礼しました。

原嶋議長 そういうサイト、例えばつくられた方がいる。ただ、市としてはやっぱり簡単に許可は、サイトというか、リンクさせる、させないというのは。

西田生涯学習部長 やはりきちっとした団体じゃないと難しいところはあります。

原嶋議長 そうですね。

西田生涯学習部長 ですから、ええ。先ほど出たのびのびーのですとか、食育の関係など、これも行政がきちっと一緒にやってきたという実績があるところなので、突然手を挙げて、今から一緒にやりましょうと言われても、それはちょっとどだい無理な話で、やはり実績積み重ねる必要があると思います。逆に言えば、これ、社会教育委員の会議みたいなのが母体となってというのはあるのかもしれないんですけども、なかなかその辺は難しいですが、ただ、そういう事例はあります。ただし、委託料として払うという先ほどの話に戻りますけ

れども、やはりお金を契約して払うという形になると、やはりきちっとした法人ということが大原則になっていくということになります。

古家委員

すいません。すごく具体的な話なんですけれども、僕はやっぱり空理空論やっても始まらないと思ったんで、すごい具体的な質問なんですけれども、小金井市のホームページの中で生涯学習課という公式ページを見ると、業務概要と生涯学習課の所在地・問い合わせという2つの項目があるじゃないですか。ここの3つ目のところに小金井市の生涯学習みたいなものの新しい項目をつかってそこからリンクを張ることはできないことなのか、もしくは業務概要の中に生涯学習系の業務概要、文化財系の業務概要、スポーツ進行系の業務概要というのが3つあるんですけれども、そこにもう1個、何か小金井市の生涯学習みたいな項目ができて、そこからリンク飛ばすのかのどちらかの問題かと思うんですが、その辺はちょっとある程度、方法として可能なほうを教えてくださいたいのがもう1つと、やっぱり具体的に考えるとすれば、やっぱりこの小金井市に関係する、先ほど例えば子育て関係のものとか、私たちがやっぱりいろいろなことを検索した上で、こういうのがありますよというのをいっぱい羅列をしてみて、これは公的なものとしてリンクさせてもいいかな、これはちょっとというみたいなものをたくさん羅列してみて、その中から取捨選択して、それをリンクに張るような方向だったら、比較的現実味を帯びているのかなとは思ったんですけれども、いかがでしょう。

西田生涯学習部長 まず、最初のご質問なんですけれども、これは正直、ホームページのつくり、どういうマトリックスでできているのかという話にかかわってきますので、私もその部分にかかわっているわけではないので、わかりにくいんですが、基本的には暮らし・学びという大くりの中で、生涯学習課から飛ぶというよりは、トップページの、いわゆるくくりの中から飛んでいったほうがわかりやすいのかなという気はします。もちろん生涯学習課のその部分から飛ばすことも可能ではあるとは思いますが、その辺はつなぎ方、どういうリンクの張り方というのは、最終的にどういう形で見せるのか、どういうつもりで見せるのかということにもかかわってくると思

いますので、そのホームページ、もしリンクでつくとすれば、そのコンセプトをどう定めるのかによって、そのリンクをどうとるかという形も変わってくるのかなという気がします。

それから、2点目なんですけれども、もう一度お願いします。

古家委員

今、小金井市のいろいろな生涯学習に関係するであろうみたいなことをやっぱり私たちがいろいろ、自分で調べてみて、こういうのがある、こういうのがある、こういうのがある、今、いっぱい、やっぱりこれだけたくさんあるんだというのを一個一個、中を吟味しながら、これだったら、リンクで飛ばしても大丈夫じゃないかみたいなものは、これは、つくるんだったら、それはやらなきゃいけないだろうなという気はしていますけれどもね。

西田生涯学習部長

どのぐらいの作業量があるのかちょっと想像もつかないですけれども、かなり細かい作業になってくるかなと思います。それで、これ、実際にやってみないと、かなり難しい。漏れがないようにするというのは、まず不可能に近いですから、多分検索サイトで社会教育とか、生涯学習とかという、キーワードとかというのがあるんですけれども、前も申し上げましたが、生涯学習を何というふうに定めるのかというのは大きな話で、社会教育というのは社会教育法というのがありまして、学校教育を除く全ての教育というような、基本的に定義が条文の中でされているんですね。ただ、生涯学習のほうでそういうものがないんですよ、定義づけるものが。一般的には学校教育を含む全てではないかというような意見があります。そうなってくると、生涯学習というと、先ほど小山田委員からもありましたけれども、食育、子育て関係、こういうのも生涯学習だと言えば、生涯学習に絡んでいくんですね。それから、今、こういって市民協働の一つの形として、これは行政が主催してやっている会議なんですけど、これも広義の意味で言えば、生涯学習に当たるのではないかとか、そうなってくると、さて、何を調べばいいのかというのは、これはちょっと際限なくなってしまうので、もしその作業をするということであれば、小金井市では、生涯学習をこのように位置づけましたというところをまず考えてからやらないと、かなり膨大な作業になってしまうなというようなことはちょっと個人的に思いました。

古家委員

ちょっとすいません、今の件で。

もっともだと思うんですね。私は、何でこんな話をしているかという、ゼロからつくるというのは不可能だというのがもう大前提にあるから、今あるものを活用するという方向を探るしかないだろうなと思うから、今みたいな意見を言ったんですね。その生涯学習の定義とか、そういった部分をどう考えるかといったら、僕はやっぱりこれになると思うんですね。この中に載っているものに関係するものとしてくくるということは大事なことだと思う。何のために社会教育委員の会がこういうをつくっているかと言ったら、この第3次推進計画を苦労してつくっているわけですから、ここの中にあるものを、外れるものはとりあえずは除外するという発想の中で、ここにあるものをやっぱりまずは選んで整理していく必要はあるかなと。それぐらい絞って考えないと、この議論は全部空理空論になってしまうと思うので、何かにやっぱり手をつけなきゃいけないと思うんで、私はこれをベースに探すということはやってみたいほうがいいような気はするんですね。

西田生涯学習部長　そういう意味でも逆に他市の皆さんがどういうふうにしてホームページをつくられたのかとかって聞いてみるのも一つの方法かもしれません。ホームページも必ず出発点があって、一番最初につくった時点がどこの市でもありますので、どういう考え方でつくりましたかというような、それをお聞きしてというのも重要なものかもしれないです。

原嶋議長

ちょっと議論が出てきました。それで、この委員会では、我々も学習計画の中に、承認しているわけですから、どなたかおっしゃったように、少しでも実現できる、あるいはちょっとでも可能な方法、現実化に近いものを行政のほうにも後押しとして持っていきたいなというふうには思っているわけです。もう少し、だから、具体的なものをということで、見えてこない部分があると思います。議論ばかり言ってもしょうがないので、そこで探してきたのが今度の狭山だと思いますが、そこら辺、いわゆる人口だとか財務状況だとかというのをそこで勘案してきたの見学になるんじゃないかなと

思っています。

あと、よろしいですか。

古家委員 すいません。もう一つつけ加えさせてください。

原嶋議長 どうぞ。

古家委員 さっき私はこの第3次推進計画をもとに考えるべきだと言ったんですけれども、これ、あえて僕は言うておきたいんですが、じゃ、それを生涯学習課の3人の方で、そういういっぱい項目を探し出して、それを羅列したものを出してくださいという言い方を私はするつもりはないんです。それやるだけでもものすごい膨大な時間がかかると思うので、この社会教育委員の会議の中でせめてできることがホームページの作成ではないのかというようなことに行ったということは、やっぱり私たちが自分たちで分担して探してきて、この情報を集約するようなことはやらないと、生涯学習課の職員の方に膨大な負担をかけると思うので、そういったことも含めて実現可能なことをやっぱり探っていくべきではないかなというふうには、長期的に考えるんですね、と思うんです。

原嶋議長 ただし、限られた会議の枠組みの中で、工程表みたいのをですね、そういうのを考えていかないと、ちょっと中途半端に終わってしまうなというのを危惧することはありますね。

古家委員 すいません。それで、私もなんですけれども、そ生涯学習センター機能の最初のスタートというのは、小金井市のトップページでいいと思うんで、どこにそのリンクを張る、もうリンクしか多分ないと思うので、小金井市のトップページの中のどこにどういう項目でリンクのスタートをつくるかというのは、そのスタートの第一だと思うので、それはちょっとやっぱり、少なくともこの数カ月間のうちにめどは立てて、そこからとりあえず幾つか飛ばすみたいな部分を最初のとっかかりぐらいにまずは持っていけたらいいなという気はしていますよね。それは具体的にしないと、いつまでたっても空理空論で行くと思うんですね。

佐野委員 佐野ですけれども。

原嶋議長 どうぞ。

佐野委員 以前、東久留米は小冊子を全戸に配布して、その中にいろいろ市民の皆さんが興味のある内容とか、ご希望する内容だとか、そういうものを1冊の小冊子にして配られたものがあつたんですよ。これ、一回ちょっと見たかもしれないですけども。ですから、そういうところから小冊子をつくるには、非常にお金がかかるんで、要するにホームページ的なものに置きかわってきたんじゃないかなと私は思っているんですけども、小金井の場合にはそういう小冊子をもとにしていろいろ、自分が希望するような講座とか、そういう学習だとか、そういうものを選べるような形のものではなかったんじゃないかなと思うんですよ。

ですから、最初からホームページという形になるので、非常に立ち上げについては、ちょっと労力と時間がかかるんじゃないかなということにはちょっと思います。

柴田委員 よろしいですか。柴田です。

原嶋議長 どうぞ。

柴田委員 やはりホームページ作成の前段階として、市民の中で学びたい人がその人の関心に応じた情報を獲得するということや、その学びの機会によりアクセスしやすくなるための情報提供のためのホームページ作成というところが大前提にあると思いますので、まずはより多くの情報で、特に学習機会というと、いろいろあると思うんですけども、公民館などの、図書館とか、そういったところが社会教育施設の講座というものや、それから例えば、小山田さんのところの未来研究所でやっているような講座であるとか、そういう、ある程度社会教育ということを経営している施設の講座を一覧にするような紹介といいますかね、で、各自で関心がある人はそれぞれに問い合わせができるというようなきっかけを提供するというところから初めてみるのが現実的なのではないかと思います。いきなりそこに、そこをクリックすると、全ての情報に飛んでいくという

ようなことはちょっと無理だと思うので、ある程度市民の方も自分で情報を得るために動くということを最初は大前提として、ただ、多くの情報を網羅して学びたい人に提供するというようなものを一覧として提供するというところが現実的なんじゃないのかなというふうに、皆様の議論聞いて思いました。

原田委員 今のご意見に賛成なんです。ホームページをつくるにしても、基本の情報一覧がないと、絶対できませんので、おっしゃるとおりだと思います。その作業が、でも、結構大変だなと想像しますけれどもね。

佐野委員 ちょっと佐野ですけれども。
今副議長のおっしゃったとおり、ほんとうにそのとおりだなと私も思います。ですから、今、公民館の館長がお見えになってますけれども、公民館活動というのはすごく小金井は非常に豊富で歴史もある。だから、何かそういうものをベースにして、それをもう少しホームページで市民の人が、何も公民館に行かなくても見られるような形でスタートしたら、いかがなものかなというふうにもちょっと思います。図書館長も見えてますから、何かそういう形でスタートしたらどうかと思いますけれども、そういうことは困るのでしょうか。

西田生涯学習部長 そうですね。よく生涯学習課の窓口にも見えられるんですけども、これ、よくあるんですが、どこに行けば何があるのかわからないということなんです、一番問題なのは。それで、とりあえず市役所に来てみました。第2庁舎の1階に受付があるので、いろいろ学びの社会に入ってみたいんですけども、どうすればいいんでしょうと聞くと、7階の生涯学習課に行ってくださいと言われて、やってくると。そうすると、その生涯学習課で話を聞いた上で、公民館でやっていますから、公民館に行ってください。公民館に行ってみると、ああ、そういう細かい事業ですと、南のほうでやっていますから、貫井南センターに行ってください。これなんです、多分引っかかっているのが。ですから、どこかに行けば、あるいはどこかを見れば、どこに行けばいいのかわかるということが、まず出発点なのかなと。やっているのかどうかはまずわかること。やっ

ているとしたら、どこでやっているんだろうというのが、これが例えばホームページで見えるということが、多分出発点なのかなと。だから、最初に尋ねるところが一発でわかるということですよ。そのあたりというのは、図書館・公民館という、今例として挙がっていましたがけれども、実は今もあると言えはるんですね。ちゃんと公民館・図書館もホームページなり、それぞれペーパーで公民館の公民館の便り、図書館も図書館だより、出していますので、それをちゃんと丹念に見ていけば出ているんですよ。ところが、一番問題なのは、集約されていないということなんだろうと思うんですよ。

ですから、公民館の事業をするためには公民館だより見なきゃいけない。そのためには、公民館でやっているという前知識がないと、公民館だより見ない、見られないですよ。公民館だより、とりに行かなきゃいけない。この公民館だより、どこにあるんだろうという話になっちゃいます。だから、図書館も全く同じことになりますので、これが例えば小金井市の先ほどの例で言えば、1階の受付に当たるホームページというところで聞けば、あれは公民館の貫井南センターに行ってくださいと最初から言ってくれるわけですよ。そうすると、7階に行ったり、公民館の本館に行ったりという手間が省けると。そうすると、市民の方のストレスも軽減できるということもありますので、皆さんのお話聞いていると、そういうふうなことから初めていくというようなことなのかなと、ちょっと私、今、解釈させていただいたんですけれども。そういうことであれば、可能なのかなという気がしますけれどもね。

原嶋議長

今の部長さんのお話ってわかりやすいですよ、だからね。最終的に一発でどこに行きたいのかというのが大体指示してくれる、検索してくれるということだね。

どうぞ。

石田委員

学びの、この中の学びのネットワークのこの先に各課でやっているいろいろなイベント名がたくさんありましたよね。ですから、この小金井市でやっているイベント名、市が、各課がかかわっているイベント名ということはすぐ出てくるわけですよ、多分。こういった体系、何か体系づけてずらっといっばい表になって、前期には

これをつくる参考資料として出てきておりましたよね。ですから、今、部長さんが言ったような、もとの頭があれば、そこへすぐ、例えばヨガをやりたいんですと言ったときには、どこかの課が応援しているヨガの教室とか、そんなのが出ていたような気がするんです。そういうものは、意外とまとめたものがあつたと思うんですが。

西田生涯学習部長 それって情報の更新をしていかなきゃいけないということがありまして、ある何月何日時点を出してくださいということでまとめた表だと思うんですよね。何月何日現在ですので、当然、各課で見直しをかけたりますよね。毎週火曜日にやっていますというのを水曜日に変えましたですとか、時間帯を変えましたですとか、そういうのを、じゃ、逐一生涯学習課が把握していけるかというとなかなか難しいところもありまして。

石田委員 難しい。ホームページの担当者ですよ。

西田生涯学習部長 ええ。それをやると、担当が1人専任でないと困難です。

石田委員 無理ですね。

西田生涯学習部長 片手間にやろうとすると、多分漏れが出てきます。ただし、さらに言えば、その事業全部が生涯学習課が見ているわけではありませんので、その担当課のその担当の人がきちんと生涯学習課に知らせるということを忘れてしまうと、全く意味のない、古い情報が入っていても、意味がないという話になっちゃうんで、その辺はちょっと整理してやらないと、すぐにできるかという、すぐには多分できないと思います、端的に言ってしまうと。ただ、将来的にはそっちにつなげていくのが筋じゃないかなとは思いますが。

ですから、とりあえずは、例えばですけども、これ、私があんまりべらべらしゃべっているのはよくないんですが、小さく始めるということから言えば、一番やりやすいのは生涯学習部の中でやっている事業をまずはまとめてみましょうと。こんなの、やっけていて当たり前だと言われれば、それまでなんですけれども、それが、じゃ、ホームページ上にきちっと、今までまとめて出ていたかという、それが無いわけですので、まずそこをきちっとまとめるところ

から始めていきたいと思いますというところから、何もしないんじゃないなくて、まずそこから始めて、それをどういうふうに広げていけるかというのは今後の検討ということもあるのかなという気がしますけれども、ただ、ここでとまっちゃうのはちょっともったいないので、もうちょっと先まで皆さんで考えていただきたいなという感覚は、私は持っています。

原嶋議長 ほかに、よろしいでしょうか。

柴田委員 柴田です。

今、部長さんがおっしゃったように、生涯学習部で企画をされているような市内の事業を一覧にするだけでも市民にとってはすごくいい学習情報源だと思います。今日は図書館に行こうとか、例えば今日は博物館に行こうと、小金井公園に行こうとか、例えば今日は市民スポーツセンターに行こうとか、そういうような学びのデザインというものが、その一覧があると、身近な生活圏の中で市民の方ができるのではないかと思いますので、もっと詳しい情報は、じゃ、その施設に聞いてみようというところは市民の方がやっていただくというところで、一つの社会教育パッケージみたいな、講座のパッケージのようなものでプラスアルファ例えば信頼の置ける団体の講座の紹介、例えば長坂先生のところの市民大学であるとか、そういった情報を載せるようなものから始めていくのがいいんじゃないかなと思いました。

原嶋議長 これを一人一人デザイン、聞いてみると、ちょっと今日は時間もないのかなというふうには思っていますけれど。

音声機器不調のため、これ以降音声なし。